

国語教育における主体性の育成に関する一考察



【中野キャンパス】人文社会学部 教育学科 小学校・特別支援コース 准教授

寺岡 聡志 Teraoka Satoshi

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 国語教育・学びに向かう力・円滑な接続・保幼小連携教育・発達心理学



研究の概要

SDGs 目標 4 : 質の高い教育をみんなに

本研究のテーマは幼児教育における保育者の支援を手がかりに国語教育における主体性の育成を図ることである。

【研究の背景】

○学校教育法 30 条第 2 項に、学力の 3 要素の一つとして「主体的に学習に取り組む態度を養うこと」とある。またこれを受けて現行の学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業の改善が希求されている。すなわち、将来の変化を予測することが困難な時代を切り開いて生きていくためには、主体的に取り組む態度を育成することが肝要となる

○学習指導要領には「学校段階間の円滑な接続」として、幼児期の教育と初等教育との円滑な接続が求められている。またその具体的な方策として「幼児期の終了までに育ってほしい幼児の具体的な姿」や「幼児教育のスタートカリキュラム」等が示されている。すなわち、子どもの途切れることのない育ちを支援し援助するためには、小学校教諭も幼児教育の実際を知り、その支援や援助の方法を学習指導や児童理解に生かすことが肝要となる。

【研究の方法】

- ・幼児教育の支援や援助を援用し、初等教育の旧来の学習指導方法を見直し改善を図る
- ・発達心理学の論考等を援用し、児童の発達段階に即した単元計画の見直し改善を図る

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

■主体性育成の手がかりを「幼児教育における保育者の支援や手立て」に希求している点

・学習指導要領には「学校段階間の円滑な接続」として、幼児期の教育と初等教育との円滑な接続が求められている。その具体的な方策として「幼児期の終了までに育ってほしい幼児の具体的な姿」が示されている。すなわち、子どもの途切れることのない育ちを支援し援助するためには、小学校教諭も幼児教育の実際を知り、その支援や援助の方法を学習指導や児童理解に生かすことが今求められている。

よって、以下のニーズが考えられる。

- ・「将来の変化を予測することが困難な時代を切り開いて生きていくため」の具体的な方策の一つとなりうる
- ・「幼児教育と初等教育の円滑な接続」のための具体的な方策の一つとなりうる

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【論文】

- ・「生活科との関連を図る上での国語教科書の役割に関する一考察
～身近な自然を観察する学習を手がかりに～」
- ・「小学校 1 年次における『説明的な文章を書く活動』の困難要因に関する一考察
～発達心理学の論考を手がかりに～」